

大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供委託事業

長野晃輔

目 的

大型クラゲ（エチゼンクラゲ）等の出現・分布状況を、試験船による洋上調査及び県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に情報提供して漁業被害の軽減を図る。

材料と方法

1. 洋上調査

2021年10月7～8日及び16日に、試験船青鵬丸により青森県日本海沖で大型クラゲの目視調査を実施した。

2. 出現量調査

キタミズクラゲは電話や当研究所が発行する漁海況速報等で情報収集を依頼し、大型クラゲは県内の全漁協に対して出現状況（日別、漁協別、漁業種別）について、メールやFAX等により情報収集を依頼し、本報告では2021年8月～2022年2月分をとりまとめた。

3. 標本船調査

キタミズクラゲは2021年5月から7月にかけて、太平洋側に位置する六ヶ所村漁業協同組合所属の小型定置網漁業者1名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。大型クラゲは2021年9月から2021年2月にかけて、日本海側に位置する新深浦町漁業協同組合所属の小型定置網漁業者1名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。

結 果

1. 洋上調査

調査実施期間において、大型クラゲの出現は確認されなかった（表1）。

2. 出現量調査

(1) キタミズクラゲ

大量出現の情報はなかった。

(2) 大型クラゲ

2021年度は、日本海で41個体、津軽海峡で67個体、陸奥湾で8個体、太平洋で664個体の出現報告があった。出現時期としては平年並みで、9月22日に東通村尻労沖（小型定置網）での報告があり、11月25日の六ヶ所村泊沖（小型定置網）での報告以降の出現情報はなかった。青森県での合計出現報告数は10月がピークで600個体、続いて11月に176個体、9月に4個体であった。

これらについては、（一社）漁業情報サービスセンターへ報告したほか、当研究所が発行する漁海況速報に掲載し、漁業関係者へ情報提供を行った。

3. 標本船調査

(1) キタミズクラゲ

2021年度は標本船調査の期間外でもキタミズクラゲの大量出現の情報は一切なかった。標本船調査は

5月7日からとなったが、期間を通してキタミズクラゲの出現は極めて少なく、サイズは傘径30センチ以下であった(表2)。

(2) 大型クラゲ

調査期間中、9月～11月に入網が見られた。入網した大型クラゲは全体的に小型であった(表3)。

表1. 2021年度大型クラゲ目視調査結果

調査月日	表面水温	目視個体数	調査船名
10月7日～8日	19.8～22.5℃	0	青鵬丸
10月16日	-	0	青鵬丸

表2. 2021年度キタミズクラゲ標本船調査結果(六ヶ所村漁協、小型定置網)

月	調査日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (℃)	被害の有無
			大型 (31cm以上)	中型 (21～30cm)	小型 (11～20cm)		
5	5	3(60.0)	0	2	10	12～14	なし
6	9	8(88.9)	0	0	27	13～17	なし
7	10	10(100.0)	0	0	77	16～20	なし

表3. 2021年度大型クラゲ標本船調査結果(新深浦町漁協、小型定置網)

月	調査日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (℃)	被害の有無
			大型 (100cm以上)	中型 (51～99cm)	小型 (50cm以下)		
9	9	1(11.1)	0	0	1	-	なし
10	26	6(23.1)	0	1	6	-	なし
11	26	2(7.7)	0	1	2	-	なし
12	25	0(0)	0	0	0	-	なし
1	14	0(0)	0	0	0	-	なし
2	16	0(0)	0	0	0	-	なし